

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	定期考査や小テストから、初見の英文の内容を読み取る問題は比較的できる生徒が多い一方、語彙の理解や並び替え問題が苦手な生徒が多い。	定期考査の平均点は約56点、小テストの平均約65%であった。特に並び替え問題、英作文の正答率が低かった。	定期考査や復習確認テストから、教科書で学習した内容については身につけているが、初めて見る英文を読んで内容を理解して問題に答えることが苦手な生徒が多い。
学習状況	多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでおり、ペアワークなども積極的に英語を使って取り組んでいる。家庭学習に関しては、定期考査前は多くの生徒が取り組むが、習慣的に取り組む生徒は少ない。	少人数クラスの授業では、ほとんどの生徒が集中して活動に取り組んでいる。ただ、宿題として出しているその日の文法事項の振り返りについては、終わっていない生徒がどのクラスにも数名いる。	授業のペア活動やグループ活動は意欲的に取り組む生徒が多いが、個人で取り組むことについては個人差が大きい。家庭学習についても生徒によっての差が大きい。
生徒アンケートの結果より	授業に積極的に参加している生徒は9割を超えているのに対し、1日平均1時間以上書いて学習に取り組んでいる生徒は6割程度である。	授業に積極的に参加している生徒は9割を超えているのに対し、(塾含めて)1日平均1時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒が5割強である。	授業に積極的に参加している生徒は9割程度なのに対し、1日平均1時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒が7割程度である。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	生徒が既習事項を繰り返し使えるような授業づくりをする。また課題が作業ではなく、学習内容の定着が目的であることを再度生徒に周知し、目的をもって学習に取り組めるようにする。	年度当初に生徒に伝えた「長期記憶に残すことのメリット」と、「そのための具体的な手だて」を再度周知するとともに、知識の定着につながるような家庭学習課題を設定する。	帯活動で話すことを取り入れて、積極的にコミュニケーションをとる姿勢を身につけさせることができた。しかし、それを書くことの正確さに結び付いていないので、話したことを書く活動を取り入れる。
評価方法	日頃の授業への取組や定期考査の結果などを通して、学習内容の定着度や家庭学習への取組の様子を計る。	ノートチェック、小テスト、パフォーマンステスト、定期テスト等の結果を通して学習内容の定着度や家庭学習への取組を確認する。	スピーキングテストで正しく話すことができているかを確認させて、定期考査でそれを正しく書くことができるようになっているかを確認する。